

# 2020年度 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー

認知症とともに希望をもって暮らす  
地域共生に向けた支援体制を築いていくために

認知症介護研究・研修東京センター  
(進行:副センター長(兼)研究部長 永田 久美子)





それぞれの自治体ならではの地域の特徴を大切に  
「地域共生社会づくり」を一步一步、着実に進めていこう

# 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーのねらい

◆全国それぞれの自治体が、

認知症とともに希望をもって暮らす地域共生社会の実現に向けて

◆各自治体ならではの地域支援体制づくりを着実・持続発展的に進めていくために

◆他の自治体の企画・運営のあり方や工夫等の情報を参考に、

◆自地域を振り返り、今後の補強点・改良点を見出す機会とする。

この合同セミナーで

認知症施策の  
・方向性  
・焦点  
の確認を

他の自治体の  
取組報告をもとに  
施策担当者の  
・考え方、姿勢  
・進め方、工夫等  
を参考にする。

自地域の今後の  
あり方・補強策等を  
具体的に考える。

★自地域で

職場内・地域で  
\* 情報共有  
\* 対話・討議  
方向性確認  
具体策補強  
\* 今後に向けて  
効果的な取組の  
強化・推進・加速

全国の担当者同士のネットワーキング

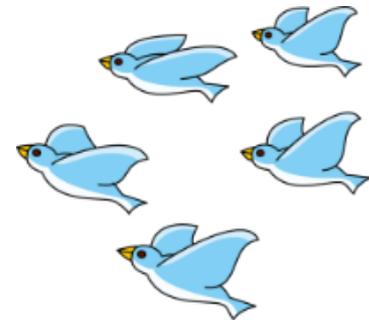
\* 合同セミナーはきっかけ  
セミナー後にこそ  
施策関係者同士が  
つながり、交流・協働を

\* zoom画面下の「Q&A」より質問や情報を、どうぞお寄せ下さい。  
本日最後の時間で討議します。

\* セミナーの時間が限られ、回答しきれず申し訳ありませんが、  
後日、Q&Aをまとめて、当センターのホームページDCネットに掲載いたします。

# 認知症施策の方向性と焦点

\* 施策担当者が、見定めて舵取りを



# ★ これからの方向性

## 認知症施策推進大綱 (政府の関係閣僚会議)

令和元年6月18日

\* 初の本格的な国家戦略

★ 認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指す。



絶望せずに、日々を自分らしく暮らし続けられる

官邸 ホームページ「認知症施策推進大綱」を基に作成  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ninchisho\\_kaigi/pdf/shisaku\\_taikou.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ninchisho_kaigi/pdf/shisaku_taikou.pdf)

### これまでの施策(新オレンジプラン)

\* やさしい社会を目指す

支援者側が主体

➔ 希望をもって過ごせる社会を目指す

★ 本人が、すべての人が(私たちが)主人公

\* 医療・介護・福祉分野が主

➔ 「社会全体としてより総合的に」目指す

★ 自地域のあらゆる人たちが力をあわせて

### 大綱

★認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指す



そのためには・・・

○「共生」と「予防」を車の両輪として

「認知症にならない」という意味でない。← **重要な点**  
\*「認知症になるのを遅らせる」 } **認知症から目を背けない**  
\*「なっても進行を緩やかに」 } **みんなが「備える」**

**予防は、ともに健やかに生きていくための手段。**

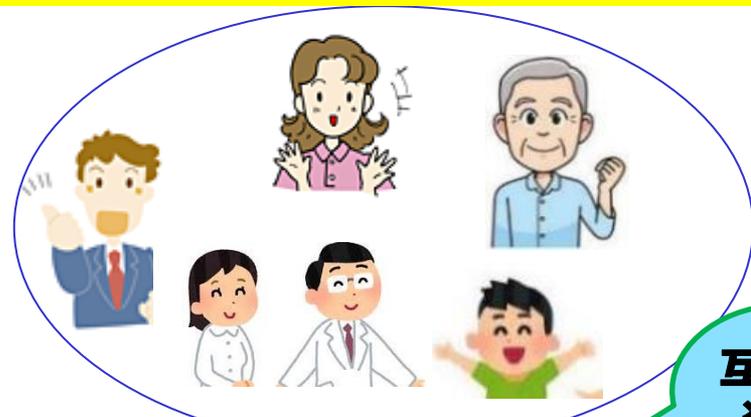
「共生」には、2つの意味がある。

- ★①認知症の人が、**尊厳と希望を持って認知症とともに生きる**（自分ごと）
- ★②認知症があってもなくても**同じ社会でともに生きる**（社会全体で）

# ★希望：理想論ではなく、認知症とともに生きていくために切に必要！

現状では 絶望の悪循環に陥り、苦悩している人たちが大勢いる

刷新しないと、本人、家族、支援者、地域に余計な負荷がかかり続け、  
社会全体の活力が減衰



互いに  
苦しむ

## 絶望の悪循環

- 他者視点、問題重視、社会から疎外、絶望
- 暗く、楽しみなく、孤立、ピリピリ
- ⇒お互い消耗、対立、バラバラ
- ⇒状態や生活が悪化、互いの力が削がれる
- ⇒互いの負担・苦悩増加、世代間対立
- ⇒若い世代含め社会全体が絶望的
- ⇒ますます地域から疎外

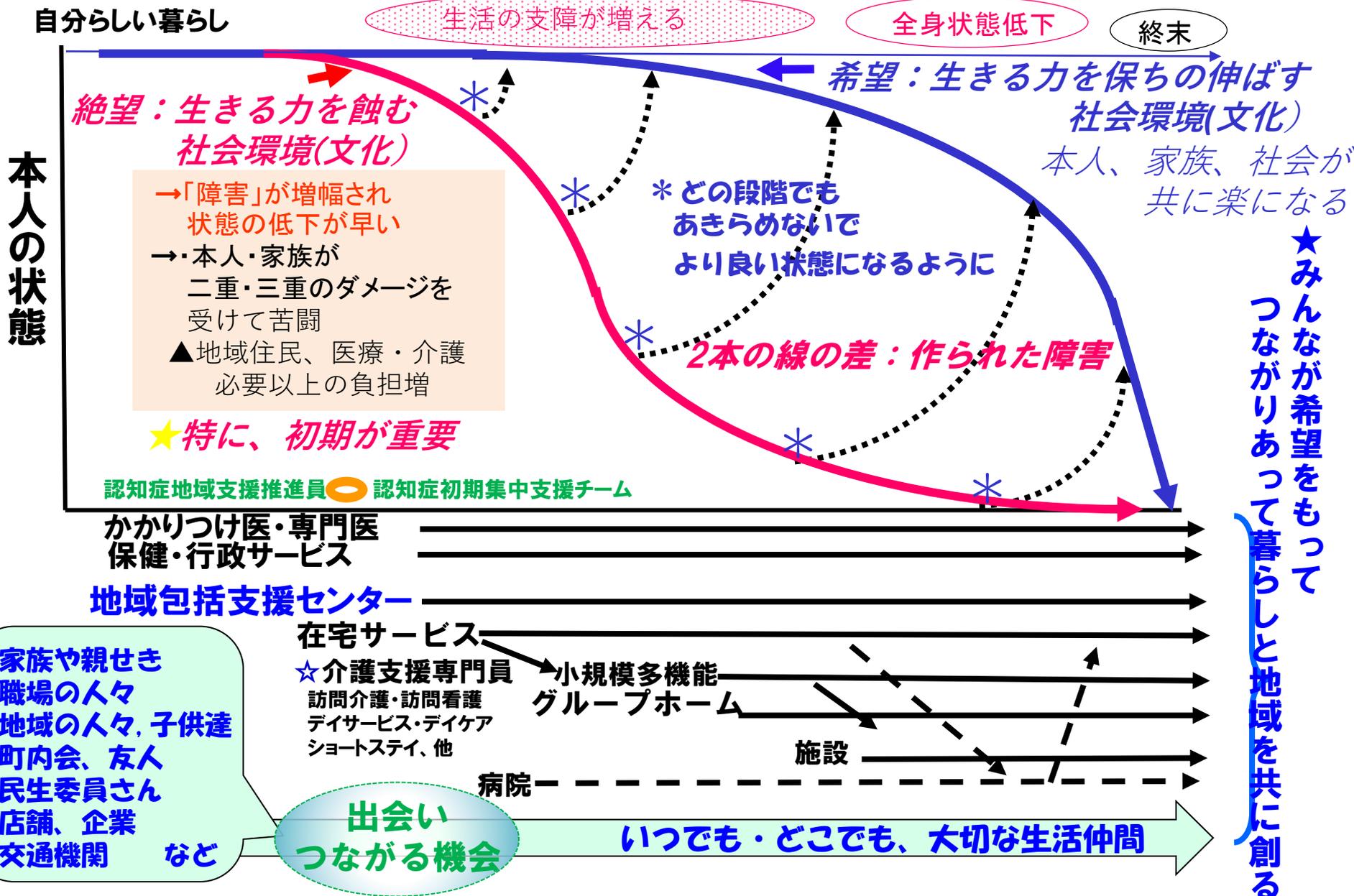
互いに  
楽に

## 希望の良循環

- 本人視点、可能性重視、社会参加、希望
- 明るく、楽しく、いっしょに、伸びやかに
- ⇒お互い元気に、仲良く、つながる
- ⇒状態安定、互いの力が伸びる
- ⇒互いが楽に、負荷最小化、世代融合
- ⇒若い世代含め社会全体が希望を持てる
- ⇒社会参加があたりまえに、共生

絶望の悪循環を断ち切り、希望の良循環を地域全体で創ることが重要課題

自治体が、「希望の方向性」を掲げて、推進しているかどうか  
 ⇒本人個人はもとより、地域社会全体の活力が大きく左右されている



# 本人自身が、次に続く本人、そしてすべての人に 希望を伝える時代になってきました。

## 認知症とともに生きる希望宣言

1

自分自身がとらわれている常識の殻を破り、  
前を向いて生きていきます。

2

自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、  
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3

私たち本人同士が、出会い、つながり、  
生きる力をわか立させ、元気に暮らしていきます。

4

自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、  
身近なままで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5

認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、  
暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

## 認知症とともに生きる希望宣言」

★本人たちが声を寄せ合い宣言(2018.11)

★認知症の私たちだからこそできることがある

★大綱 ⇒ 全ての市町村でこの宣言の普及を



一足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ

# 大綱：認知症施策の「5つの柱」

1. 普及啓発・本人発信支援
2. 予防
3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
4. 認知症バリアフリーの推進、  
若年性認知症の人への支援、社会参加支援
5. 研究開発・産業促進・国際展開

認知症の人の  
視点にたつて、  
認知症の人や  
その家族の  
意見を踏まえて

# ★ これからの焦点

本人自身が、発信できるように  
・ 本人の声を聴く  
・ 声をもとにともに築いていく

1. 普及啓発・**★ 本人発信支援**

2. 予防

3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

4. **★ 認知症バリアフリー**の推進、  
若年性認知症の人への支援、**★ 社会参加支援**

5. 研究開発・産業促進・国際展開

認知症の人の  
視点にたつて、  
認知症の人や  
その家族の  
意見を踏まえて

\*この推進役は  
認知症地域支援推進員(2019年度～)



# 本人発信の重要性：価値が大



## 1) 共生社会にむけたこれからの啓発・社会参加の根幹

- ①一人ひとりの声、発する姿が、職種や立場を超えて様々な人に、気づきや驚き、感動・勇気をもたらす
- ②認知症を他人事ではなく、自分事として「前向きに考える」きっかけになる
- ③本人と一緒にアクションが自然に生まれる  
⇒「認知症とともに生きる」実際や可能性、正しい「活かした理解」を生み出す
- ④本人自身が活躍する機会が増え、本人がよりよく生きる力や可能性が伸びていく

- ・ 偏見、誤解から脱出
- ・ 認知症観の転換
- ・ 自分事として備えへ
- ・ 本人視点での協働へ
- ・ 共生の基盤が育つ

## 2) 共生社会作りを着実に進める計画・方策の源泉

- ⑤本人が切実に求めている肝心なことや、支援・連携の必要な点/不足（真の地域課題）が具体的に見つかる
- ⑥認知症とともに生きていく（小さな）希望や工夫・知恵が豊富にみつける  
\* 認知機能の低下レベル、要介護度に関わらず

- ・ 施策や支援の改善点  
具体策が明確になる
- ・ 注力すべきことや優先順位が明確になる
- ・ 先延ばしではなく、スピード感、自発性が高まる

★本人発信支援が、「地域を変える・創る×医療・ケアの質向上」の重要な源泉

# 従来の認知症施策・事業・取組 本人の声を聴かず、本人抜きで進められてきた

⇒多様な人が多大な努力をしてきたが、真の成果(地域共生)を生み出せずに来た

地域共生の具体的な姿？

本人の声(希望)？ 本人の力？

相談

認知症  
カフェ

本人ミー  
ティング

初期集  
中支援

医療介護  
対応力  
向上

地域ケア会議  
連携会議  
/多職種会議

見守り・  
SOS  
体制作り

啓発・  
講座  
イベント

健診  
健康  
作り

認知症  
ケアパス  
の改良

# ★本人発信支援

先送りしたり、特別新たに・・・ではなく  
すでにある施策・事業・取組すべての起点として行政が推進を  
\*認知症施策の進化・深化、加速化につながる

認知症とともに、希望をもって日常生活を過ごせる地域共生  
わが町ならではの具体的な地域共生の姿を実現

本人の発信支援(声を聴き、共に創る)

- \*本人の社会参加の重要な一環
- \*各事業が、本人の声をもとに連動・統合、総合力アップ
- \*認知症バリアフリーが自然と進む

質の向上

相談

認知症  
カフェ

本人ミー  
ティング

初期集  
中支援

医療介護  
対応力  
向上

地域ケア会議/  
連携会議  
/多職種会議

見守り・  
SOS  
体制作り

啓発・  
講座  
イベント

健診  
健康  
作り

認知症  
ケアパス  
の改良

\*各事業はあくまでも手段、目標は地域共生。

# どの自治体にも 本人たちは、発信できるチャンスを待っている 絶望しないで、希望を持って前向きに生きていこう！



- \* 若い人も、年配の人も、いくつであっても。
- \* 認知症の初期の人はもちろん、認知症が深まった人たちも！
- \* 都会地も、小さな町村も
- \* 在宅の人も、病院・施設の人も

今、行政に求められること、行政ならではのできることは・・・

★本人が声を出しやすく、声が行政まで届き、活かされる体制作り

◆ 自治体の規模・地域特性を生かした体制(フォーメーション)作りを  
⇒それぞれの自治体なりの工夫が可能！

◆ コアになる人材・チームを大切に育てる

本人の傍らで日常的に本人の声を聴きながら本人とともに前向きに歩んでいる多分野の地域人材を行政が大切にし、その人たちが活躍しやすい環境を整備していく。

\* どの自治体にもいる

- ・認知症地域支援推進員
- ・地域密着型サービス等、ケア関係者
- ・地域医療、地域支援の関係者

◎ 地域で地道に実践を重ねている実質的な連携役の人 等

都道府県が市区町村のバックアップを

★人口規模が異なる3自治体の本日の報告を、ご参考に。

# めざす姿の実現にむけて取組を着実に進めよう：市区町村・都道府県・国が重層的に

(元気な頃～) 地域の中で希望を語り活躍しながら、自分らしく生ききる (最期)



## 地 域:共 生

認知症があってもなくても、同じ社会の一員として地域で共に暮らし地域と一緒に創っていく

市 区 町 村

固有の風土・文化・社会資源を最大限に活かしながら  
わが町ならではの、持続発展的な地域支援体制を築いていく

都 道 府 県

市区町村の施策・取組の推進・環境整備・バックアップ

国：内閣、厚生労働省、関係省庁

## 認知症施策推進大綱

都道府県・市区町村の施策・取組を推進・環境整備・バックアップ

# 參考資料

# 本人の声と力を大切にした認知症施策の推進

⇒地域包括ケアシステム、全世代型の地域共生が進展

1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 2040 2050 2060～

◆痴呆(認知症)が  
社会問題化

◇認知症施策の  
体系的整備が  
スタート

認知症施策

認知症施策  
推進大綱  
2019年6月

本人の  
声・力

希望をもって  
ともに暮らし  
続けられる  
地域共生社会

高齢者施策

地域包括  
ケアシステム

高齢者

全世代  
多様な障害  
多様な課題

包括的  
支援体制

全世代

(子ども、困窮、  
孤立、災害、他)

本人の声を聴くと・・・様々な可能性、希望がみえてくる

★認知症があっても、支えられる一方で決してない。

楽しみ、活躍し、自分らしく地域の一員として生きている。



毎週、畑仕事。元気が蘇る  
子供も、医師も一緒に。



好きな手仕事を地域の  
人たちや専門職と



保育園の物品の作り手として  
大活躍。自然な世代交流



高齢化した町会の助っ人  
防犯パトロール  
子供の登下校の見守り役



軽作業の仕事で活躍  
企業にとっても  
貴重な人手



本人が病院で働く  
診断後で不安一杯の  
本人の相談役  
(非常勤職員として)

本人が生き生き⇔家族も生き生き⇔地域も生き生き (良循環)

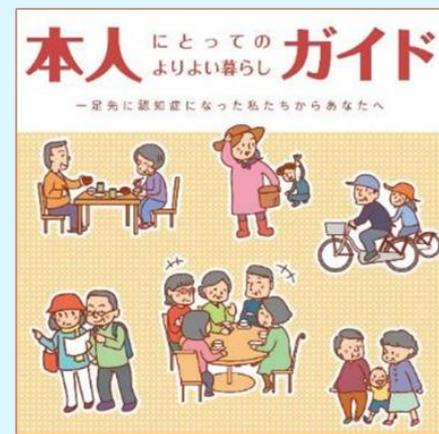
# 「認知症とともに生きる希望」を インパクトをもってPRする資料を、職場や地域に伝えて活かそう



認知症とともに生きる希望宣言  
リーフレット



希望大使ポスター



本人にとっての  
よりよい暮らし  
ガイド  
(小冊子)

\* 入手は、厚労省HP、あるいは  
日本認知症本人ワーキンググループ [office@jdwg.org](mailto:office@jdwg.org)

\* 「希望のリレー」をあなたのまちでも

## 厚生労働省 ホームページ

\* 認知症本人大使「希望大使」

\* 本人からのメッセージ

全国7地域(40代~70代) 計7名が  
希望を持って暮らしている実際の  
ショートムービー

ぜひ、地域の人たちにPRを。

厚労省  
「希望の道」

ショート  
ムービー  
7本  
各約3分

東京センターのホームページ **Dcnetの推進員ページ**をご活用ください。

**\* 2021年度研修情報、 \* 報告会資料、 \* 推進員通信等**

<https://www.dcnet.gr.jp/suishinin/>



[▶サイト案内](#) [▶サイトマップ](#)

[ホーム](#)

[検索](#)

【拠点】：認知症介護研究・研修センター（東京、大府、仙台）  
我が国の認知症介護に関する研究・研修の中核的機関として  
平成12年度に厚生労働省により設置されました。

[専門職向けページ](#)

[認知症介護指導者  
/実践者等養成](#)

[各種研修事業](#)

[研究情報](#)

[研究成果物  
学習支援情報](#)

[研究報告書検索  
地域実践事例検索](#)

[行政情報](#)

## 認知症地域支援推進員

認知症地域支援推進員(推進員)の育成やネットワーキング、活動の支援を行っています。  
お問い合わせは下記にどうぞ

03-3334-3073

月～金曜日(土日祝・年末年始除く)

09:00～17:00

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター  
認知症地域支援推進員担当

メールでのお問い合わせは  
[こちらをクリック](#)

[認知症地域支援  
推進員とは](#)

[認知症地域支援  
推進員研修](#)

[研修資料](#)

[報告会資料  
参考資料](#)

[すいしんいん  
セッション  
オンラインセミ  
ナー](#)

[推進員通信](#)

[すいしんいん  
ネット](#)

[イベント等  
のお知らせ](#)